

ボランティアが育児家庭訪問

ボランティアが育児中の家庭を訪問し、子どもと遊んだり親の話を聞いたり。英国で生まれた育児支援「ホームスタート」が日本でも始まった。親の困りごとをくみ取って目標を決め、改善度合いをみるのが特徴で、育児不安の解消や虐待防止の効果が期待されている。試行事業の報告会が今月、開かれる。
(帯金真弓)

英国発「ホームスタート」

「ホームスタート・ジャパン」(東京都)の試行事業に参加した大分県豊後大野市のみえまち・子育て支援センター。昨年11月から今年1月にかけて、6家庭を各4回訪問した。

親の孤立感解消・情緒の安定めざす

磯辺雪絵さん(28)宅は、赤嶺瑞代さん(65)が担当。長女の菜月ちゃん(4)と遊ぶのがもっぱらの仕事だ。合間に雪絵さんのおしゃべり。「夫がお風呂ぐらい手伝ってくれば」と雪絵さんがこぼすと、赤嶺さんが「頑張ります」とお願ひしてみたり。うちは家事を最初から刷り込んだわよ」と応じる。



ボランティアの森田真由美さん(右)が自宅から工作道具を持参。飾りを作りながら会話がはずむ＝大分県豊後大野市

塞感から救われたのに」市の子育て支援センターを担う「すがお保育園」の土谷修園長は、「期限を設けて評価する仕組みが新しいと思った」という。指標がない訪問事業では終了のめどがたらず、ひとり立ちにつながるに感じていた。

虐待や家庭崩壊防ぐ効果

ホームスタートは73年に英国で始まった。現在英国では約340カ所、2万人のボランティアが活動している。利用した家庭は3万5千世帯にのぼる。ロンドン郊外の住宅地ギルフオード支部では、ボランティア40人が、5歳以下の子どもがいる50世帯を訪問する。

12日に試行事業の報告会
ホームスタート・ジャパンは12日午後2時から、東京都豊島区の大正大学巣鴨校舎(西巣鴨駅)で試行事業の報告会を開く。申し込みは名前、所属団体、電話番号、メールアドレスを明記し、メール(homestartjapan@gmail.com)か、ファックス(03・522897・5770)で。問い合わせは事務局(03・522897・5771)。

父子家庭サポートする基金構想

子育て中の父親を支援するNPO法人ファザリング・ジャパン(東京)は「フレンチトースト基金」構想を発表した。半年で1億円を集め、支えが必要な父子家庭に月4万円を出す計画だ。代表理事の安藤哲也さんは「定額給付金が出たら困っている父親をサポートしよ

父親支援のNPO

「と呼びかけたい」と言う。05年の国勢調査では父子家庭は9万2千世帯。構想は、年収300万円以下の父子家庭(祖父母同居などは除く)に1年間月4万円を出し、子どもの誕生日には5万円を加算する。父親に作文「私の子育て」を書いてもらい審査、10月から

のスタートを予定している。父子家庭の支援団体も対象で、年1回100万円を助成する計画だ。企業や団体、個人から寄付を募る。

安藤さんは、講演やイベントで各地を訪ね、笑いたくても笑えない状況の父親がいることに気づいた。「仕事と子育ての両立を図るのは難しい。職を辞めざるを得ない人もいた。行政が、父子家庭の支援に目を向けてもらいたい」
詳細はNPOのサイト(Url: http://www.fathering.jp/)か、電話(050・80004・4252)で。(小幡崇)